＜２０２５年度修学旅行研究会開催報告＞

日　時：２０２５年 11 月１８日(火)　　場　所：名古屋都市センター会議室

発表校：蒲郡市立西浦中学校

テーマ：「いのち輝く未来社会」に向けて、 主体的に行動できる修学旅行

～SDGs や多文化共生を学ぶ～

【修学旅行のねらい】

(1)　大阪万博を見学することで、「いのち輝く 未来社会」を意識し、ＳＤＧｓや多文化共生について見解を広げる。

(2)　規則正しい集団生活を通して、望ましい生活習慣、保健・安全について学ぶとともに、集団生活の楽しさを味わう。

(3)　準備や当日の旅行を通して、自主的で計画的な学習態度を育てるとともに、仲間と協力する大切さを学ぶ。

【重点を置いた活動】

(1)　主体性と協働性を生かした活動（修学旅行実行委員を中心とした組織・班活動）

(2)　かかわり合い活動（当事者意識・相手意識・自己決定）

【事前学習】

(1) １年時

修学旅行先は東京と大阪のどちらがよいかを、生徒の希望を取り検討した。大阪方面に行くことを決めた後は、大阪には万博の他にどんなところがあるのか、何が学べるのかについての調べ学習に取り組んだ。

(2) ２年時

万博とは何かについて、万博協会が作成した無料の資料をもとに、万博の歴史や意義、SDGｓ等を考える授業を複数回行った。大阪・関西万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」について考えた。

【修学旅行の日程】

１日目　学校⇒大阪城公園⇒学級分散(道頓堀クルーズ・サンタマリア号乗船)⇒海遊館⇒夕食⇒ホテル

２日目　ホテル⇒大阪万博⇒夕食⇒ホテル

３日目　ホテル⇒ユニバーサルスタジオジャパン⇒学校　　（※移動は全行程バス）

【当日の活動】

(1) １日目

・　あいにくの雨。昼食を兼ねての大阪城公園散策は中止。大阪城を見ながらバスの中での昼食となった。学級分散の時間を十分にとれるように予定より早めに大阪城を出て、学級分散のコースへと移動した。

・　バス１台なので、途中道頓堀で１学級下車。町中の混雑する交通事情の中での下車ではあったが、とてもスムーズにできた。２学級とも、雨の中での船旅ではあったものの、道頓堀・大阪湾の風景を堪能した。

・　海遊館での班活動は、協力しながらルール・時間を意識して観覧できた。水槽のスケールの大きさ、魚の種類の多さに感動していた。

(2) ２日目

宿泊地が万博会場から近かったため、団体専用受付の先頭に並ぶことができた。個々で、班に１台の携帯（万博アプリインストール済）を配付。会場前に登録・利用の仕方を旅行社からレクチャーを受ける。事前に班ごとに計画した行程に従い、パビリオンへ移動開始した。予約のいるところについては、携帯を渡されてからのわずかな時間を見つけては、予約にチャレンジしていた。成功した班もあれば、予約できずに変更を余儀なくされている班もあった。

(3) ３日目

２泊したホテルを出て USJ に出発。忘れ物が無いか確認した職員から、部屋に用意されたメモ用紙に、ホテルの人たちへの感謝の言葉を書き残していたという、うれしいお知らせが届いた。生徒たちの心の成長を感じた場面であ

った。USJ でも同様に、班に渡されたスマートフォンが活躍した。事前の計画に従って、アトラクション、買い物、食事等を楽しむことができた。

【事後学習】

事後学習では、主に振り返りと修学旅行のレポート作成を行った。スローガン「たこやき」のそれぞれの項目に沿って、達成度を自分の言葉で振り返ったり、修学旅行全体を通して、仲間の頑張りなどを見つけ、記入したりした。修学旅行後のホームルームや授業では、学年スタッフから生徒たちへの頑張りを伝えたり、思い出を共に振り返ったりした。学年通信等で生徒たちの様子や振り返りなどを保護者の方にも見ていただけるよう、共有した。

【終わりに】

万博へ行けたことは、一生に一度の貴重な経験であった。経験したことのないような人の多さの中、臨機応変に、柔軟にプランを変更して対応する力が身についた。また、暑さや思い通りに行かない中、仲間を思いやり、もめることもなく、はぐれず、全員が予定時刻に間に合って集合できたことが、大きな成長であった。

「いのち輝く未来社会」に向けて、主体的に行動できる修学旅行
～ SDGs や多文化共生を学ぶ～

校長　小澤　良充

愛知県
蒲郡市立西浦中学校

●学校紹介

昭和二二（1947）年に、6・3制学制改革に伴って、愛知縣宝飯郡西浦町立西浦中學校として創立。

校訓は「愛と耐」で、「豊かな心　確かな学力　たくましい体」の3つを柱とし、あたたかさとたくましさのある西中生の育成を教育目標に掲げ、日々の教育活動に取り組んでいる。また、校訓「愛と耐」の本来の意味に加え、「出会い　ふれあい　語り合い　認め合い」「やりたい　なりたい　かなえたい」を大切にしてほしい言葉として、生徒に意識させている。

本校は今年度をもって閉校となり、次年度より「西浦学園」として小中学生が同一校舎にて生活をする形の義務教育学校となる。校舎は現在、西浦小学校の運動場に建設中。4月の年度当初には校舎が完成しないため、現在の小中学校の校舎を利用しながら分離型での開校となり、9月から新校舎で生活をする。

学校外観

School Data

【創 立 年】昭和 22（1947）年
【所 在 地】愛知県蒲郡市西浦町原山 1 -24
【教育目標】「愛と耐」　豊かな心
　　確かな学力　たくましい体
【全校生徒】109 名
【教 職 員】32 名（補助員、支援員等含）

実施要項

●旅　行　先　大阪府
●時　　期　令和7（2025）年6月3日（火）～6月5日（木）　2泊3日
●参加生徒数　3年生　39 名
●引 率 者 数　7名
●日 程 概 要

【1日目】学校 ⇒ 大阪城公園 ⇒ 学級分散（道頓堀クルーズ・サンタマリア号乗船）⇒ 海遊館
　　⇒ 夕食（レストラン ワールドビュッフェ）⇒ ホテル
【2日目】ホテル ⇒ 大阪・関西万博 ⇒ 夕食（ぼてぢゅう本店）⇒ ホテル
【3日目】ホテル ⇒ ユニバーサルスタジオジャパン ⇒ 学校
（※移動は全行程バス）

はじめに

●交通手段について

本校の修学旅行は、生徒数の減少や公共交通機関の利用しにくさがあるため、ここ数年学校発着が可能な全行程バスを基本として計画をしている。今年度は、生徒39名、引率者7名の計46名の参加である。学級数は、2学級（蒲郡市の教育支援施策で全学年35人学級を実施している）ではあるが、バス1台で計画を進めた。業者選定の折に、2台の場合と1台の場合、それぞれの見積もりを取って検討した。検討課題は、1台になることのリスク（学級経営上の課題、学級分散の制約等）と2台の場合の旅行代金高騰とを比較検討し、1台とした。そのおかげもあって、修学旅行代金は5万6千円程度にすることができた。

●修学旅行行き先について

東日本大震災の年やコロナ禍の時期において、行き先を変更したことはあったものの、修学旅行は関東方面に行くことが前提として、計画がたてられていた。修学旅行の業者選定のための準備・検討が始まる頃、学年主任から、「この学年が3年生になった時は、大阪万博開催の年に当たります。修学旅行先は、関東でなければなりませんか」と申し出があった。内心、私自身も、業者選定の準備を相談に来たら、学年主任に提案しようと思っていたこともあり、「渡りに船」だなと思いつつも、これまで培ってきた修学旅行に関するノウハウや経験値が全くないなかで進めていかなければならないことを学年主任に確認しつつ、大阪万博を主とした修学旅行の計画を承認した。

●修学旅行のねらい

・大阪万博を見学することで、「いのち輝く未来社会」を意識し、ＳＤＧｓや多文化共生について見解を広げる。

・規則正しい集団生活を通して、望ましい生活習慣、保健・安全について学ぶとともに、集団生活の楽しさを味わう。

・準備や当日の旅行を通して、自主的で計画的な学習態度を育てるとともに、仲間と協力する大切さを学ぶ。

●生徒が立てた目標

スローガン　「たこやき」

㋟…楽しく学ぶ

㋞…心に残る思い出

㋚…やぶらない（ルール、マナー）

㋛…絆を深める

大阪・関西万博 大屋根リングの上で

修学旅行は、自分たちが成長できる機会であり、生涯にわたる思い出となる。修学旅行中のルールやマナー、安全対策に気をつけながらも「たこやき」を意識して、準備してきたことを生かしつつ、全力で楽しもう。（実行委員長の言葉）

事前学習

●1年時

修学旅行先は、東京と大阪のどちらがよいかを、生徒の希望を取り検討した。修学旅行の行き先は東京が当たり前、自分たちで決めると思っていなかった生徒がほとんどであった。そのため、ＴＤＬに行った経験が無い生徒は、修学旅行で行けることを特に楽しみにしていた。しかし、自分たちで行き先を決めることがわかり、検討していくなかで、多くの生徒が万博に魅力を感じ始めた。生涯一度あるかないかの、世界から注目されるイベントに参加できることへの期待を寄せていた。

大阪方面に行くことを決めた後は、大阪には他にどんなところがあるのか、何が学べるのかについての調べ学習に取り組んだ。

●2年時

万博とは何かについて、万博協会が作成した資料をもとに、万博の歴史や意義、ＳＤＧｓ等を考える授業を複数回行った。大阪・関西万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」について考えた。事

●重点を置いた活動

主体性と協働性を生かした活動（修学旅行実行委員を中心とした組織・班活動）
かかわり合い活動（当事者意識・相手意識・自己決定）

前学習を通して、生徒たちの振り返りには、「世界の現状や様子を知ることで、SDGsや世界の人々のこと、環境について取り組むきっかけになり、また、行動に移すことにつながると思いました」や「命が輝けて、誰もがおいていかれない社会を作るということが大切であることを改めて感じました。また、そうしていくためには一人一人が意識していくことが大切であることを知りました」などといった言葉が並んだ。

●万博会場下見

万博会場の下見は、オープン後にしかできなかった。愛知万博の時には、オープンする前に何度か下見ができていたので、そのつもりでいたために少々焦った。旅行会社に問い合わせても、詳細の様子が直前までわかっておらず、不安に感じていた。

オープン後すぐに学年主任と校長とで下見に出かけた。授業が始まったばかりで、担当教員で行くことが不可能だったからである。テレビやネットなどでネガティブ情報があふれていたので、心配な面を一つ一つ確認をし、生徒の事前指導に役立てた。

修学旅行当日の様子

●1日目：大阪城～学級分散（道頓堀リバークルーズ・サンタマリア号乗船）～海遊館

初日はあいにくの雨。昼食を兼ねての大阪城公園散策は中止にした。大阪城を見ながらバスの中での昼食となった。学級分散の時間を十分にとれるように、予定より早めに大阪城を出て、学級分散のコースへと移動した。

万博入場前の記念写真

道頓堀にて

バス1台なので、途中道頓堀で、1学級下車。街中の混雑する交通事情の中での下車ではあったが、とてもスムーズにできた（乗車についても同様にスムーズであった）。

2学級とも、雨の中での船旅ではあったものの、道頓堀・大阪湾の風景を堪能した。

海遊館での班活動は、協力しながらルールや時間を意識して観覧できた。水槽のスケールの大きさ、魚の種類の多さに感動していた。

●2日目：大阪・関西万博

宿泊地が万博会場から近かったため、団体専用受付の先頭に並ぶことができた。班に1台の携帯電話（万博アプリインストール済）を配付。会場前に登録・利用の仕方を旅行社からレクチャーを受けた。

開場と同時に、セキュリティーチェックを一人一人受けた。あらかじめパスを首からぶら下げる形にしておいたので、とてもスムーズにチェックインができた。

まず、全員で大屋根リングに向かった。あらかじめ決めておいた写真スポットで撮影。開場したばかりなので、他の来場者に迷惑をかけずに撮影ができた。事前予約したパナソニックパビリオンの入場時間までに時間があったので、移動のついでに、すぐに入れそうなクウェート館へ入った。砂漠の砂に触れたり、ダンスや滑り台などで身体を使ったりして、クウェートの文化や現在の暮らしが分かるパビリオンであった。次の予約の時間があったため、後ろ髪を引かれる思いで、パビリオンを後にした。

パナソニック「ノモの国」では、光・音・風など空間で五感を刺激する演出で、不思議な体験をした。時間を忘れ、体験に浸ることができた。

「ノモの国」を出た後からは、万博班での班行動となった。事前に班ごとに計画した行程にしたがい、パビリオンへ移動開始した。予約のいるところについては、携帯電話を渡されてからのわずかな時間を見つけては、当日予約にチャレンジしていた。成功した班もあれば、予約できずに変更を余儀なくされた班もあった。食事についても、班ごとに計画通りに食べることができた班、見学時間に左右され変更した班と様々だった。内訳は、キッチンカー1班、コンビニ3班、各国の料理4班という結果であった。

観覧したパビリオンも様々で、なかでもなかなか予約が難しい「ガンダム館」に入れた班もあった。

買い物についても、長蛇の列であったが、会計が電子決済ということもあり、お店の中に入ってからは、意外とスムーズにできた。

●3日目：USJ

2泊したホテルを出て、USJに出発。忘れ物が無いか確認した職員から、部屋に用意されたメモ用紙に、生徒がホテルの人たちへの感謝の言葉を書き残していたという、うれしいお知らせが届いた。生徒たち

の心の成長を感じた場面であった。

USJでも同様に、班に渡された携帯電話が活躍した。事前の計画にしたがって、アトラクション、買い物、食事等を楽しむことができた。

事後学習

事後学習では、主に振り返りと修学旅行のレポート作成を行った。スローガン「たこやき」のそれぞれの項目に沿って、達成度を自分の言葉で振り返ったり、修学旅行全体を通して、仲間の頑張りなどを見つけ、記入したりした。修学旅行後のホームルームや授業では、学年スタッフから生徒たちへの頑張りを伝えたり、思い出を共に振り返ったりした。学年通信等で生徒たちの様子や振り返りなどを保護者の方にも見ていただけるよう、共有した。

生徒の振り返り

・2050年の海は、魚よりもゴミの方が多くなる予想で、私たちに何ができるか、どうしたら防げるかを考えていきたいと思った。

・ニュースやネットで見た情報と全然違っていた。とてもきれいだった。他の国の文化に触れたり、海外旅行に行く気分になれたりして、ずっと過ごしてきた仲間と一緒に行けてよかった。

ユニバーサルスタジオジャパンにて

サンタマリア号にて

・2年生の3学期ごろから、少しずつ準備をしはじめて、どんな修学旅行にしていきたいかなどを考えて、それを土台として少しずつ準備をしてきた。そのなかで、相手のことを考える力や物事を考える力が高まっていった。修学旅行中は、計画などがうまくいかなかったとき、どのように行動していくか、TPOを意識して一つ一つの物事に取り組んだり、行動したりすることができたと思った。この修学旅行では、たくさんのことを学び、前の自分よりも成長することができた。

・修学旅行当日まで、学習部局として活動してきた。行く場所がどんな場所か、そこでは何ができるのかなど、皆が行く前にしっかり予習できるように調べた。

・当日何をするのかと困らないように、前の日に予定をしっかり確認してイメージをした。迎えた当日は、思い通りにいかないこともあったけれど、場面に応じて、次に何をするべきか対応できたのがよかった。

おわりに

万博へ行けたことは、一生に一度の貴重な経験であった。経験したことのないような人の多さのなか、臨機応変に、柔軟にプランを変更して対応する力が身についた。また、暑さや思い通りにいかないなか、仲間を思いやり、もめることもなく、はぐれず、全員が予定時刻に間に合って集合できたことが、大きな成長であった。

今回の修学旅行では、実行委員の生徒たちが中心となり、行事全体をけん引してくれた。事前準備の段階では、班の編成や持ち物、活動内容についての提案を実行委員が主体となって行い、何度も話し合いを重ねるなかで多くの意見が出された。生徒たちが「どうすればみんなが気持ちよく過ごせるか」「安全に楽しめるか」という視点をもって取り組んだ。「みんなが気持ちよく動けるように」「思い出を共有できるように」といった意識が、実行委員から自然に学年全体に広がっていったように思う。声をかける勇気や責任感、協力の大切さを体感しながら成長することができた。

また、各部局の先生や生徒で常に連携を取ることを心がけた。どの部局も部局長を中心に、入念に計画を立て、互いに声をかけ合いながら、進捗状況を確認し合ったり、助言をし合ったりしながら当日までの準備を行うことができたと思う。先生方のご指導やご協力、また保護者のご理解、ご協力があってこその修学旅行だったと思う。